



町内で見られる大きな海獣 ザトウクジラ

天城町内の海岸で、1月中旬くらいから3月にかけて見られるザトウクジラは、奄美や沖縄の周辺海域で繁殖しているグループの一部です。ヒゲクジラの種類で、大型になると19メートル、20トンを超え、体長の1/3ほどの長い胸びれが特徴で、学名「*Megaptera novaeangliae*」の *Megaptera* / **メガプテラ** は巨大な翼を表しています。さらに、様々な声で歌うことでも有名ですが、イルカなど歯クジラのように鳴く器官も持たず、水中で息を吐くこともないので、どのように歌っているのかわかっていません。捕鯨によって激減したことから、50年あまり前から世界的に捕獲が禁止され、現在では個体数は回復して絶滅の危険は少なくなり、身近で見られるようになったようです。見つけやすいポイントは、見晴らしの良いムシロ瀬や犬の門蓋にある展望台ですが、湾屋川周辺の海域でも、静かに泳ぐ親子が見られることがあります。沖合いを泳ぐのは雄たちか、雌を追う雄の群れで、海岸近くは授乳期の母子か、それをエスコートする雄が加わった小さな群れが多いようです。なお、島の周辺にいるときは全く食事をせず繁殖や子育てをします。また、北半球や南半球にはいくつかのグループがあり、それぞれの歌は他のグループには通じないそうです。一方、歌うのは体が大きな一握りの雄だけだったり、子育てしていないメスは交尾が済むと、オスが歌い始める3月を待たず北へ帰ってしまったりと、歌はモテる要素とは限らないのでは？

※ 学名 *Megaptera novaeangliae* メガプテラ・ノバエアングリシアエ は「巨大な翼の、ニューイングランドの者」の意味で、種小名は初期に見つかった地域に因んでいるそうです。



尾びれ腹側の模様はそれぞれ違い
指紋のように個体識別できます



クジラは20分くらいで息継ぎするので
それを目安に探すのがコツです
大型のクジラでは、もっと長くなります



島に就航しているジェット旅客機とほぼ同じ重さ



もっと情報が見られる
電子版はこちら

